

第5次春日井市行政改革大綱の実施状況に対する行政改革推進懇話会委員の主な意見（平成27年度終了時）

平成28年9月1日に開催された第1回行政改革推進懇話会において、委員から次のような意見が出されました。

◇視点3の指標「職員1人当たりの時間外勤務時間」について

- ・ 時間外勤務について数値目標を設定すると、どうしても仕事を途中で切り上げることになりやすく、仕事の持ち帰りが発生して思わぬ情報漏えいが起きる可能性もあるため、管理職員は十分に注意する必要がある。また、部署によって業務量に偏りがあるのは仕方ないことだが、個人に偏らないように管理職員は部下の健康面にも気を配るようにしてほしい。
- ・ ノー残業デイ等の取組をしているにもかかわらず、時間外勤務が増加傾向にある。取組にも限界があるため、制度的に何か変える必要があるのではないか。例えば個人で対応する仕事をグループで対応するようにして、比重の多い仕事を前倒ししたり、仕事が多能的になるようなプログラムを検討してもいいのではないか。

◇視点4の指標「女性管理職の人数」について

指標自体は現実的な数字だとは思いますが、女性の活躍が推進されている時代の流れからすると非常に少ない数字ではないか。育成の面になるが、本人が管理職を望んでいるかという現状把握も必要である。

◇視点5及び視点6について

未知の行政課題が存在する場合には、部署を横断したプロジェクトチームを作ることとなるが、ある程度分野として固定化してきた時に、行政組織として部署を設置するタイミング（視点5から視点6への移行）の見極めが難しく、課題である。

◇視点8の指標「広告による歳入の確保」について

- ・ 一般企業においてもバナー広告等の媒体が多くあり、参入はなかなか難しい。新規の媒体にアプローチするしかないのではないか。
- ・ 媒体の一つとして、ネーミングライツによる歳入を検討してもいいのではないか。公共施設のほか歩道橋にもネーミングライツを導入している自治体もあり、通常は媒体にならないようなものにも可能性がある。